

◎御講演 「日本とASEAN」

外務省 南部アジア部 部長 滝崎 成樹氏

【大使の手紙】「沖縄の大東島にそっくりな島、ニウエ」

在ニュージーランド特命全権大使 高田 稔久氏

【会員のページ】「世相雑感」への会員の方のご投稿をお待ちしています



「日本とASEAN」

外務省 南部アジア部

部長 滝崎 成樹氏

(平成29年9月8日 於日本記者クラブ)



東南アジア諸国連合（ASEAN）はベトナム戦争中の1967年8月にインドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイの5カ国外相がタイのバンコクで設立宣言に署名することで設立され、今年には設立50周年にあたります。84年にはブルネイが加わり、95年にベトナム、97年にラオスとミャンマー、99年にカンボジアが加盟して現在の10カ国体制となって対等しています。

メンバー国になると、10年に1回、議長国が回ってきます。インドネシアのように2億人超の人口を抱える国も、ブルネイのように人口わずか50万人弱の国も同じように議長国の仕事をやらなければなりません。1年にASEAN首脳会議が2回あり、数々のテーマ別会議があります。また域外国との会議もある。これらの会議では、成果文書が作成されますが、これも議長国が取りまとめます。この8月にマニラでASEAN関連の外務大臣会議が行われました。域内国だけの会議に加え、日本とASEAN、ASEANと日中韓、東アジア首脳会議（EAS）参加国の外相会議、それからASEAN地域フォーラム（ARF）という安全保障に特化し北朝鮮も参加している会議もあります。域外国との会議は基本的に最後に議長声明を出します。参加国の意見は聞くものの、最後は議長の裁量で出す声明です。それだけ議長国の責任は重い。皆が怒らないように文章を作るのはなかなか大変です。ASEAN

を設置、関係をスタートしました。日本・ASEAN関係の一つの礎が1977年の福田赳夫総理のマニラでのスピーチ「福田ドクトリン」です。①日本は軍事大国にならない、②ASEANと「心と心が触れ合う」関係を構築する、③日本とASEANは対等なパートナー、の外交三原則で、「心と心が触れあう関係」「なパートナー」というところがASEANの人々の心に今でも響いていると思っています。

ASEANとの対話を切り拓いてきた日本

1994年のARF設立は日本の提案がきっかけでした。97年にはASEANプラス3（日中韓）首脳会議ができました。関係構築30周年にあたる2003年には東京で日本ASEAN特別首脳会議を開催。13年にも日本ASEAN特別首脳会議の第2回会合をやっています。これに倣い中国、韓国、インドもASEANとの特別首脳会議をやるようになりました。域外国とASEANの対話という枠組みを作ったのは日本で、それを真似たのです。

今や、あらゆる国がASEANと対話国になりたくて仕方がない。少なくともこれからしばらくは世界経済の成長センターだというのが、皆の認識だと思います。2025年にはASEAN全体の経済規模が日本の経済規模を抜くという試算もあるようです。

経済関係を見ると、貿易は日本が長い間、中国より

※ご注意: 会報は会員専用のサービスのため、ご購入いただくには、当協会にご入会くださいますようお願い致します。
ご入会は「入会のご案内」よりお問合せください。